

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500220
法人名	社会福祉法人ふたば会
事業所名	グループホームふたばの森
所在地	新居浜市船木3001番地3
自己評価作成日	平成24年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 5 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふたばの森は、平成23年5月に開設された生まれたばかりの事業所です。南を眺めれば、すぐ近くに昔のままの自然、北側には住宅地、学校、スーパーと「生活」する上では、とても恵まれた場所に開設することができました。いろんな世代のスタッフと利用者とともに「楽しく笑顔のある暮らし」をおくれるようにと取り組んでいます。当グループホームをとりまくみんなが1日1日を「のんびり」と、だけど「大切に」生きていけたらと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して1年、管理者、職員の交代もなく、全員で話し合い考えた事業理念と職員行動指針をサービスの基本とし、利用者との協力し、より良い事業所を目指している。生活の主体は利用者であるという考えの下「自立支援」「自由な生活空間」「集団の力」「地域の一員」「家族の協力」「インフォーマルなサービスの構築」を運営方針とし、利用者一人ひとりが自分らしく、毎日を大切に過ごすことができるよう取り組んでいる。地域密着型の特別養護老人ホームと隣接しており、地域の高齢者福祉の拠点としての役割にも期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームふたばの森

(ユニット名) どんぐり(1階)

記入者(管理者)

氏名 高橋 俊道

評価完了日

平成24年4月28日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業開始時に職員全員でケアのあり方、思いを話し合い、自分たちの言葉で事業理念、行動指針を作成した。事業所内に意識付けのための掲示はしているが実践強化のために定期的な振り返りを行うように取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 職員一人ひとりが、事業所の理念を理解し、同じ質のサービスを、日々利用者に提供できるよう全員で話し合い、わかりやすい言葉で具体的な事業理念と職員行動指針を作っている。毎朝、朝礼で振り返り日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 生活は事業所内で完結するのではなく、生活の一部として地域行事に積極的に参加している。その交流の中から近所の方に「みなさんで楽しんでください」と畑をおかりすることができた。今後もこのような関係を広げていきたいと考えている。	
			(外部評価) 母体法人は介護老人福祉施設、在宅介護支援センター等の事業を行っており、長年地域の高齢者福祉に貢献してきた実績があり、地域の信頼も大きい。今後も人のつながりを大切にし、情報を発信し、地域との相互関係が築いていけるよう取り組んでいきたいと意欲的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 市民向けの地域ケアネットワークの会議に参加させていただき、事業所での実践をもとに認知症の人の理解や支援方法を地域の人々に紹介させていただいている。今後もこの取組を継続させていただきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に1回、近設の特養のスペースをお借りして運営 推進会議を開催している。報告や情報交換はできてい るが、もう少し話しやすく率直な意見交換ができる会 議になるような工夫が必要ではないかと考えている。	
			(外部評価) 隣接している施設の会議室を借りて行なっている。参 加者が意見を十分言いにくいところもあるが、利用 者、家族、職員は毎回交代で参加できており、1年目の 会議としては、参加メンバー、内容等、意欲的に取り 組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 日頃より市の担当者とは情報交換を行うように努めて いるが、制度について不明な点等の確認にとどまって おり、事業所の取組や地域福祉の向上についての意見 交換については今後の課題と考えている。積極的に働 きかけていきたいと考えている。	
			(外部評価) 母体法人は、行政からの依頼にも取り組んできてお り、協力関係が築けている。運営推進会議に毎回参加 してもらい報告内容についての意見や、事故報告につ いての助言等も受けており、会議運営やサービスの取 組みに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業開始時に勉強会を実施し「身体拘束をしないケア についての実践」を学んだ。当然、玄関の常時開錠を 含め身体拘束は行っていないが、言葉や抗精神薬での 拘束の危険性や防止のため、今後も定期的に勉強会を 開き、意識が劣化しないように取り組んでいきたいと 考えている。	
			(外部評価) 介護経験の少ない職員もいるため、開設時に勉強会を 行い、利用者一人ひとりが生活の主体者であり「その 人であり続ける」ことを大切にしている。事業所は 「自由な生活空間」と考え、一律のルールやスケ ジュールで管理した運営は行わないことを運営方針と している。今後も定期的に勉強会を行う予定である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についても開設時に職員研修を実施している。定期的に学ぶ機会をもうけ、虐待はもとより「不適切なケア」についての理解を深め発生防止に取り組んでいきたいと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 開設時に学ぶ機会を設けたが、現在、制度を活用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、円滑に制度活用ができるようにシステム作りを行ってきたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結時には、時間をかけて重要箇所を十分説明するように努めている。家族等の不安や疑問点にはその都度説明を行い理解・納得していただくように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、要望等は面会時などの来所時に個別に確認するように努めている。今後、家族参加の行事及び家族会等を開催し気軽に意見交換ができる場を確保していきたいと考えている。 (外部評価) 積極的な呼びかけを家族に行い、運営推進会議に毎回交代で出席してもらっている。花見には多くの家族が参加し、家族間のコミュニケーションの場となった。現在家族会の設置は無いため、今後も家族が参加できる機会を設け、意見や要望等聞ける工夫をしたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会、職員会を定期的を開催し、その中で提案された意見を可能な限り運用に反映できるように努めている。	
			(外部評価) 毎月のユニット会議や2か月毎の職員会議では、利用者についての意見交換をするとともに、備品の購入希望等を管理者から施設長に相談し購入している。管理者も日常的に職員から直に意見を聞く機会をつくり、開設時からの同じメンバーで、話しやすい関係ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は週に2、3回は事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切に、やりがいや働きやすい職場づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。OJTの取組についても今後の課題と考えシステムづくりに取り組んでいきたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修事業に参加させていただき、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。今度は市内の事業所との交流も検討していきたいと考えている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に複数職員で訪問し、本人の困っていること、不安なこと、要望等の確認を行っている。本人さんをよく理解することに努め、グループホーム入居という環境変化からくるダメージを少しでも軽減できるように職員の配慮事項や居室等環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族等に困っていること、不安なこと、要望を確認している。また、入居前に事業所へ事前見学にこられた際にも上記のような確認を行い円滑に入居できるような支援に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に「今一番困っていること」をお聞きしている。事業所として対応可能なことについては遅滞なく対応を行い、対応困難な場合については他事業所等の活用情報の提供や紹介調整を行っている。今後も初期対応の支援が円滑にできるように情報収集とネットワークづくりに努めていきたいと考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者ができることは、なるべく自分でできるように支援している。また、調理などは利用者の方に味付けなどを教えてもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、日常の生活状況の事や現状などを毎月お手紙で伝えるなどして安心していただけるように努めている。また、来所された場合は利用者と家族がよりよい関係になるように配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事や祭りへの参加など、これまでの生活の中で行っていたことを取り入れるように努めている。入居前の行きつけの散髪屋やパーマ屋、昔通ったお店等への外出支援も行い馴染みの関係の継続支援に努めている。 (外部評価) 開設から1年目であることや、在宅からの入居者が半数程いることから馴染みの関係は継続しており、事業所もいろいろな側面から支援している。今後も家族などの面会の機会を増やし、馴染みの人に認知症への理解を得るよう働きかけを行い、情報の収集や把握、関係継続に努めていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が生活の中で支え合うような働きかけに努めている。また、利用者間がトラブルにならないようにその都度職員が間に入りながら支援している。利用者同士が楽しく生活できるように今後も個々の状態を把握できるように努めていきたい。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事業開始からまだ退居された方はいないが、入居者が医療機関へ入院された場合は、病状に応じて利用者とともに定期的にお見舞い等を行い関係を断ち切らないように配慮している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者個々に話を聞き、なるべく一人ひとりの思いを取り入れるように努めている。すべての事を取り入れることは困難であるが、少しずつでも実現にとりくんでいきたい。	
			(外部評価) 「自立支援」をサービスの基本としており、入居前に自宅を訪問し、利用者の生活を確認し、必要なサービスを提供している。入居後は、日々の関わりを支援経過に記録し、利用者一人ひとりの意向の把握に努め、ユニット会議等で分析し、利用者のできること、したいことを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員は生活歴などを確認し把握するように努めている。また、入居者や家族との日々の会話の中から今までの生活状況、環境を聞き取れるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの現状を職員間で把握共有できるように常に言葉かけを行いながら、一人ひとりの状態に合わせた対応ができるようにこころがけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 各ユニット会やカンファレンスでは職員間で意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。今後は本人、家族等もカンファレンスに参加していただき取り組んでいきたいと考えている。	
			(外部評価) 経験の少ない職員もいるため、アセスメント、モニタリング、カンファレンス、介護計画の作成は、管理者を中心に行い、記録の取り方や会議の進め方など、熱心に取り組んでいる。今後のカンファレンスには、利用者、家族の参加を計画しており、利用者の暮らしを主体とした介護計画づくりに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 開設当初は、日々の様子を記録するだけで終わっていたが、少しずつ利用者一人ひとりの状態を把握できた事で個々の現状や気づいた事を記録に残していけるようになってきた。今後のこの記録を介護計画の見直しに活かしていきたいと考えている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 生活を支えるということは、支援の枠組みを広げることと考えている。柔軟な支援や多機能化のためには事業所のみならず、運用についての協力者の発掘に努めていきたいと考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 個別に活用可能な地域資源を把握し本人が主体的に活用できるように支援して行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医については入居前から本人の病状をよく 知っているかかりつけ医に適切な医療が受けられるよ うに支援している。また、かかりつけ医からの情報交 換から医療的観察事項や介護上の注意点等の助言をい ただいている。	
			(外部評価) 病院受診は、馴染みの場所や人との交流の良い機会と なっており、家族にお願いしたり、職員が対応してい る。適切な医療が受けられるよう、利用者一人ひとり のかかりつけ医と情報交換もしている。利用者個別の 健康管理記録をもとに1週間ごとに課題分析し、かかり つけ医の指示により適切に健康管理を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職は、現在不在である。今後の必要姓を感じ看護 職の確保が早急の課題と考えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した場合は、文書にてグループホームで の生活の状況や入院までの経緯、配慮していただき たい申し送り事項等を報告している。また、円滑に入退 院ができるように定期的に医療機関のソーシャルワー カーと情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 事業開始間もないため重度化や終末期ケアについては 事例がないが、今後、適切な対応ができるように勉強 会や本人、家族との意見交換を実施しながらスキル アップに努めていきたいと考えている。	
			(外部評価) 常勤の看護師がいないことや、24時間の医療連携体 制が整っていないことなど終末期ケアを行うには課題 もあるが、今後利用者や家族の希望があれば、家族や かかりつけ医等と連携を図りながら支援していく方針 である。	今後、重度化や終末期支援のあり方など事業所の対応 について、関係者全員で話し合い、事業所の力量や体 制を整えていくことに期待したい。段階ごとに、利用 者や家族の意向を確認しながら、医療関係者等と連携 し対応方針の共有を図って行くことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応については勉強会を行ったが実践力については不安が残る。今後の課題として消防の救急救命講習等に定期的に参加し実践力を身につけたいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練等は実施しているが、勤務上すべての職員が体験しているわけではない。今後、定期的に訓練を実施し職員個々のスキルアップをめざしたい。近設特養とともに地域との協力体制を築いているがさらなる強化をめざしたい。 (外部評価) 年2回の火災想定での避難訓練で、利用者の避難能力の見極めや、緊急通報装置を使用するなど、総合的に取り組み、職員全員が報告書を提出し問題点を検討している。緊急連絡網は事業所から近い職員順に作成し、緊急時に速やかに協力できる体制を整えている。AEDの設置や利用者の個人情報ファイルも備えている。	近所の方や地域の自主防災組織、警察署、消防署等との連携を図りながら、避難経路の確認、AEDや消火器の使い方等、定期的に訓練を実施することが望ましい。緊急通報装置やスプリンクラーの点検、緊急連絡網の実施、地震に備えた家具の固定など、日常的に防災意識を持った取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室時や排泄誘導時、入浴支援時などプライバシーを損ねないような言葉かけには常に意識しているが、今後も個々を尊重していくように努めていきたいと考えている。 (外部評価) 居室の表札や掲示する写真等、入居時に利用者、家族に確認し、同意を得ている。個人情報の取扱いについては職員全員が十分理解し取り組んでいる。また声かけや対応については、プライバシーに配慮しながら職員全員が笑顔と優しさのあるケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の様々な場面で自己決定・選択の機会を提供するように努めている。また、本人の思いを言葉に出せるような信頼関係を築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりのペースに合わせ生活がおくれるように努めているが、職員側の都合に合わせてしまう事がないように、今後も常に意識していきたいと考えている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性の入居者はお化粧されるなど、その人らしいおしゃれを楽しめるように努めている。また、本人が希望する美容院へ行けるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や後片付けは、それぞれにできる役割で行っている。利用者の方が味付けなどのコツを職員に教えてくれるなど、活躍の場面を支援するように努めている。	
			(外部評価) 利用者は、職員と楽しく会話しながら、一緒に準備を行うなど、食事の時間をゆったりと楽しんでいる。献立は職員が考え、利用者のリクエストに応じたり、畑で採れた食材も活用し工夫している。利用者もできることは手伝って、利用者同士も互いに協力しあっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランスや糖尿病の方の事も考え献立を立案している。また、毎食時の摂取量や水分量を確認し記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 言葉かけを行い口腔ケアを行っている。現状はほとんどの入居者が一部介助で行えているが、今後も毎食後に確実にいえるように実践していく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄が行えるように支援している。オムツ使用者に対しても、日中は紙パンツ等を使用し排泄記録表や排泄徴候の観察から誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 生活健康管理記録で排泄の時間や回数を把握し、利用者一人ひとりに合わせたトイレ誘導や声かけ、見守りを行なっている。失敗したときは、利用者に配慮し手早く静かに対応している。トイレで排泄できるよう、利用者に合わせた工夫をしながら取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の処方にて緩下剤を使用している方もいるが、なるべく自然排便ができるように水分摂取量にも注意しヨーグルトやオリゴ糖、ブルーベリーなどを摂取していただき個々に合わせた対応をこころがけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせた入浴にこころがけている。時間帯についても入居者に尋ね、その人が入りたい時間になるべく入浴できるように努めている。今後、利用者に応じて入眠前に入浴の実施も対応していきたいと考えている。	
			(外部評価) 利用者の生活習慣や希望に合わせた入浴ができるよう、工夫している。利用者が気持ちよく入浴できるよう、利用者毎にお湯の入換を行なっている。脱衣室、浴室とも広く、補助台や浴槽が可動式になっており、介助が必要になっても設備が十分整っている。隣接の施設の特浴の利用も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間や起床時間については決めておらず個々の状況に合わせた対応に努めている。日中についても居室で休息したい方は自由に休めるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の種類や副作用についての情報はファイルに綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。また、処方薬が変更になった場合は必ず申し送り、状態の変化の有無を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた楽しみがもてるように生活の中で役割を持てるように努めている。職員の都合で役割をもたせる事にならないように努めていきたいと考えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に合わせた外出支援を心掛けているが、職員の勤務状況により出来ていない時もある。全体での外出行事は月に1度は取り入れているが、今後は個々の希望に対応できるように工夫していきたいと考えている。	
			(外部評価) 食材の買い物、病院受診、美容室、地域の行事への参加、保育園への訪問、毎月の外出行事や外食等、外出の機会を積極的に取り入れている。ベランダに布団を干したり、敷地内の庭に洗濯物を干したり、畑仕事をしたりと、日常生活のなかでできるだけ戸外に出れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人で所有している方もおられるが、ほとんどの方が所持していないためお金の心配をされる方が多い。職員は言葉かけをしながら少しでも安心できるように配慮しているが、今後、所持についての支援の工夫が必要と考えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話については、本人の希望時には使用できるように配慮しているが、諸処の事情で全て要求どおりには対応できていない。今後、なるべく本人の希望がとおるよう工夫していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なるべく家庭生活と同じような環境になるようにこころがけ季節の花を飾ったりしながら工夫している。また、共用の空間でも個々に合わせてその都度混乱を軽減できるよう物品の配置を工夫している。	
			(外部評価) 設計の段階から管理者が関わり、居室やトイレの配置を利用者が混乱しないよう工夫したり、居間と食堂を別にして、生活にメリハリが持てるよう配慮されている。居室からベランダや戸外に自由に出れるようになっており、周りの景色を直に感じて一日を過ごすことができる。玄関や居間などには生活感や季節感を感じられる工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 事業所内の空間ごとに椅子を複数設置して一人ひとりが自由に過ごせるような環境づくりに配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンスや布団などは今まで使い慣れた物を持参していただいている。居室空間は個々が安らげる場所になるように今後も工夫しれいきたいと考えている。	
			(外部評価) 洗面台、ベッド、エアコン、カーテンは備え付けとなっている。寝具やタンス、椅子、思い出の品々が自由に持ち込まれ利用者の居心地のよさに配慮している。それぞれの居室の掃除等もできるだけ利用者が行い、自宅のような雰囲気でも過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の方がなるべく安全に生活でき、家庭と同じような環境になるようにこころがけている。また、生活物品の配置を工夫して自立生活を誘発するように工夫していきたいと考えている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500220
法人名	社会福祉法人ふたば会
事業所名	グループホームふたばの森
所在地	新居浜市船木3001番地3
自己評価作成日	平成24年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 5 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふたばの森は、平成23年5月に開設された生まれたばかりの事業所です。南を眺めれば、すぐ近くに昔のままの自然、北側には住宅地、学校、スーパーと「生活」する上では、とても恵まれた場所に開設することができました。いろんな世代のスタッフと利用者とともに「楽しく笑顔のある暮らし」をおくれるようにと取り組んでいます。当グループホームをとりまくみんなが1日1日を「のんびり」と、だけど「大切に」生きていけたらと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して1年、管理者、職員の交代もなく、全員で話し合い考えた事業理念と職員行動指針をサービスの基本とし、利用者との協力し、より良い事業所を目指している。生活の主体は利用者であるという考えの下「自立支援」「自由な生活空間」「集団の力」「地域の一員」「家族の協力」「インフォーマルなサービスの構築」を運営方針とし、利用者一人ひとりが自分らしく、毎日を大切に過ごすことができるよう取り組んでいる。地域密着型の特別養護老人ホームと隣接しており、地域の高齢者福祉の拠点としての役割にも期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームふたばの森

(ユニット名) 2階(くるみ)

記入者(管理者)

氏名 高橋 俊道

評価完了日

平成24年4月28日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業開始時に職員全員でケアのあり方、思いを話し合い、自分たちの言葉で事業理念、行動指針を作成した。事業所内に意識付けのための掲示はしているが実践強化のために定期的な振り返りを行うよう取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 職員一人ひとりが、事業所の理念を理解し、同じ質のサービスを、日々利用者に提供できるよう全員で話し合い、わかりやすい言葉で具体的な事業理念と職員行動指針を作っている。毎朝、朝礼で振り返り日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 生活は事業所内で完結するのではなく、生活の一部として地域行事に積極的に参加している。その交流の中から近所の方に「みなさんで楽しんでください」と畑をおかりすることができた。今後もこのような関係を広げていきたいと考えている。	
			(外部評価) 母体法人は介護老人福祉施設、在宅介護支援センター等の事業を行っており、長年地域の高齢者福祉に貢献してきた実績があり、地域の信頼も大きい。今後も人のつながりを大切にし、情報を発信し、地域との相互関係が築いていけるよう取り組んでいきたいと意欲的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 市民向けの地域ケアネットワークの会議に参加させていただき、事業所での実践をもとに認知症の人の理解や支援方法を地域の人々に紹介させていただいている。今後もこの取組を継続させていただきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2カ月に1回、近設の特養のスペースをお借りして運営 推進会議を開催している。報告や情報交換はできてい るが、もう少し話しやすく率直な意見交換ができる会 議になるような工夫が必要ではないかと考えている。</p> <p>(外部評価) 隣接している施設の会議室を借りて行なっている。参 加者が意見を十分言いにくいところもあるが、利用 者、家族、職員は毎回交代で参加できており、1年目の 会議としては、参加メンバー、内容等、意欲的に取り 組んでいる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価) 日頃より市の担当者とは情報交換を行うように努めて いるが、制度について不明な点等の確認にとどまって おり、事業所の取組や地域福祉の向上についての意見 交換については今後の課題と考えている。積極的に働 きかけていきたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 母体法人は、行政からの依頼にも取り組んできてお り、協力関係が築けている。運営推進会議に毎回参加 してもらい報告内容についての意見や、事故報告につ いての助言等も受けており、会議運営やサービスの取 組みに活かしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 事業開始時に勉強会を実施し「身体拘束をしないケア についての実践」を学んだ。当然、玄関の常時開錠を 含め身体拘束は行っていないが、言葉や抗精神薬での 拘束の危険性や防止のため、今後も定期的に勉強会を 開き、意識が劣化しないように取り組んでいきたいと 考えている。</p> <p>(外部評価) 介護経験の少ない職員もいるため、開設時に勉強会を 行い、利用者一人ひとりが生活の主体者であり「その 人であり続ける」ことを大切にしている。事業所は 「自由な生活空間」と考え、一律のルールやスケ ジュールで管理した運営は行わないことを運営方針と している。今後も定期的に勉強会を行う予定である。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についても開設時に職員研修を実施している。定期的に学ぶ機会をもうけ、虐待はもとより「不適切なケア」についての理解を深め発生防止に取り組んでいきたいと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 開設時に学ぶ機会を設けたが、現在、制度を活用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、円滑に制度活用ができるようにシステム作りを行っていきたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結時には、時間をかけて重要箇所を十分説明するように努めている。家族等の不安や疑問点にはその都度説明を行い理解・納得していただくように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、要望等は面会時などの来所時に個別に確認するように努めている。今後、家族参加の行事及び家族会等を開催し気軽に意見交換ができる場を確保していきたいと考えている。 (外部評価) 積極的な呼びかけを家族に行い、運営推進会議に毎回交代で出席してもらっている。花見には多くの家族が参加し、家族間のコミュニケーションの場となった。現在家族会の設置は無いため、今後も家族が参加できる機会を設け、意見や要望等聞ける工夫をしたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会、職員会を定期的を開催し、その中で提案された意見を可能な限り運用に反映できるように努めている。	
			(外部評価) 毎月のユニット会議や2か月毎の職員会議では、利用者についての意見交換をするとともに、備品の購入希望等を管理者から施設長に相談し購入している。管理者も日常的に職員から直に意見を聞く機会をつくり、開設時からの同じメンバーで、話しやすい関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は週に2、3回は事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切に、やりがいや働きやすい職場づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。OJTの取組についても今後の課題と考えシステムづくりに取り組んでいきたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修事業に参加させていただき、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。今度は市内の事業所との交流も検討していきたいと考えている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に複数職員で訪問し、本人の困っていること、不安なこと、要望等の確認を行っている。本人さんをよく理解することに努め、グループホーム入居という環境変化からくるダメージを少しでも軽減できるように職員の配慮事項や居室等環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族等に困っていること、不安なこと、要望を確認している。また、入居前に事業所へ事前見学にこられた際にも上記のような確認を行い円滑に入居できるような支援に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に「今一番困っていること」をお聞きしている。事業所として対応可能なことについては遅滞なく対応を行い、対応困難な場合については他事業所等の活用情報の提供や紹介調整を行っている。今後も初期対応の支援が円滑にできるように情報収集とネットワークづくりに努めていきたいと考えている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で食事、洗濯、掃除など、できる事は一緒に行い、又、教えていただく事で、利用者が張りのある生活、雰囲気づくりに取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、挨拶だけでなく、日々の生活の状態、体調の事などを伝え、家族の不安の軽減、信頼関係の構築に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の盆踊りや文化祭、保育園児との交流をとおして地域社会とのつながりを継続するように努めていきたい。 (外部評価) 開設から1年目であることや、在宅からの入居者が半数程いることから馴染みの関係は継続しており、事業所もいろいろな側面から支援している。今後も家族などの面会の機会を増やし、馴染みの人に認知症への理解を得るよう働きかけを行い、情報の収集や把握、関係継続に努めていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共同生活のため、一人でいる時間も大切と考え、利用者の状態をみて対応している。行動のズレから利用者間のトラブルに発展することもあるが、その都度職員は利用者間の調整に配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事業開始からまだ退居された方はいないが、入居者が医療機関へ入院された場合は、病状に応じて利用者とともに定期的にお見舞い等を行い関係を断ち切らないように配慮している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人に希望や要望を尋ね実現できるよう職員間で話し合い計画を行っているが、すべてを実現するのは困難である。できることから実践し、少しずつ実現に向けてとりくんでいきたいと考えている。	
			(外部評価) 「自立支援」をサービスの基本としており、入居前に自宅を訪問し、利用者の生活を確認し、必要なサービスを提供している。入居後は、日々の関わりを支援経過に記録し、利用者一人ひとりの意向の把握に努め、ユニット会議等で分析し、利用者のできること、したいことを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員は生活歴などを確認し把握するように努めている。また、入居者や家族との日々の会話の中から今までの生活状況、環境を聞き取れるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりのその日の心身の状態を表情やバイタル、会話などから把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員会やユニット会などで職員の意見を出してもらい介護計画に反映できるように努めている。 (外部評価) 経験の少ない職員もいるため、アセスメント、モニタリング、カンファレンス、介護計画の作成は、管理者を中心に行い、記録の取り方や会議の進め方など、熱心に取り組んでいる。今後のカンファレンスには、利用者、家族の参加を計画しており、利用者の暮らしを主体とした介護計画づくりに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の経過記録、生活状況について記録し把握するように努めている。1週間ごとに評価し変化徴候に対して早期に発見、対応できるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 生活を支えるということは、支援の枠組みを広げることと考えている。柔軟な支援や多機能化のためには事業所のみならず、運用についての協力者の発掘に努めていきたいと考えている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 個別に活用可能な地域資源を把握し本人が主体的に活用できるように支援して行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医については入居前から本人の病状をよく 知っているかかりつけ医に適切な医療が受けられるよ うに支援している。また、かかりつけ医からの情報交 換から医療的観察事項や介護上の注意点等の助言をい ただいている。	
			(外部評価) 病院受診は、馴染みの場所や人との交流の良い機会と なっており、家族にお願いしたり、職員が対応してい る。適切な医療が受けられるよう、利用者一人ひとり のかかりつけ医と情報交換もしている。利用者個別の 健康管理記録をもとに1週間ごとに課題分析し、かかり つけ医の指示により適切に健康管理を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職は、現在不在である。今後の必要姓を感じ看護 職の確保が早急の課題と考えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した場合は、文書にてグループホームで の生活の状況や入院までの経緯、配慮していただき たい申し送り事項等を報告している。また、円滑に入退 院ができるように定期的に医療機関のソーシャルワー カーと情報交換を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 事業開始間もないため重度化や終末期ケアについては 事例がないが、今後、適切な対応ができるように勉強 会や本人、家族との意見交換を実施しながらスキル アップに努めていきたいと考えている。	
			(外部評価) 常勤の看護師がいないことや、24時間の医療連携体 制が整っていないことなど終末期ケアを行うには課題 もあるが、今後利用者や家族の希望があれば、家族や かかりつけ医等と連携を図りながら支援していく方針 である。	今後、重度化や終末期支援のあり方など事業所の対応 について、関係者全員で話し合い、事業所の力量や体 制を整えていくことに期待したい。段階ごとに、利用 者や家族の意向を確認しながら、医療関係者等と連携 し対応方針の共有を図って行くことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応については勉強会を行ったが実践力については不安が残る。今後の課題として消防の救急救命講習等に定期的に参加し実践力を身につけていきたいと考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練等は実施しているが、勤務上すべての職員が体験しているわけではない。今後、定期的に訓練を実施し職員個々のスキルアップをめざしたい。近設特養とともに地域との協力体制を築いているがさらなる強化をめざしたい。 (外部評価) 年2回の火災想定での避難訓練で、利用者の避難能力の見極めや、緊急通報装置を使用するなど、総合的に取り組み、職員全員が報告書を提出し問題点を検討している。緊急連絡網は事業所から近い職員順に作成し、緊急時に速やかに協力できる体制を整えている。AEDの設置や利用者の個人情報ファイルも備えている。	近所の方や地域の自主防災組織、警察署、消防署等との連携を図りながら、避難経路の確認、AEDや消火器の使い方等、定期的に訓練を実施することが望ましい。緊急通報装置やスプリンクラーの点検、緊急連絡網の実施、地震に備えた家具の固定など、日常的に防災意識を持った取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室時や排泄誘導時、入浴支援時などプライバシーを損ねないような言葉かけには常に意識しているが、今後も個々を尊重していくように努めていきたいと考えている。 (外部評価) 居室の表札や掲示する写真等、入居時に利用者、家族に確認し、同意を得ている。個人情報の取扱いについては職員全員が十分理解し取り組んでいる。また声かけや対応については、プライバシーに配慮しながら職員全員が笑顔と優しさのあるケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者ごとの行きたい所、したい事など、日々の会話の中で聞きとりを行っているが、なかなか実現することが難しい。1つずつ確認し計画し実行して行けるように取り組んで行きたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のその日の状態を観察し、外出、買い物などの気分転換の機会を設けている。一人ひとりのペースを崩さない様に職員間でこころがけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服は、毎日同じものにならないようにさりげなく支援をしている。散髪等は家族の協力を得てなじみの美容室等へ行けるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や後片付けは利用者と共に行い、それぞれの役割をもって行えるように支援している。	
			(外部評価) 利用者は、職員と楽しく会話しながら、一緒に準備を行うなど、食事の時間をゆったりと楽しんでいる。献立は職員が考え、利用者のリクエストに応じたり、畑で採れた食材も活用し工夫している。利用者もできることは手伝って、利用者同士も互いに協力しあっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取カロリーや栄養バランスを考えた献立を作成するように努めている。摂取量も一人ひとりの摂取量の把握に努め量をさりげなく調整している。水分補給はあきがこないように色々な飲み物を用意し選択していただき、こまめに摂取してもらえるように配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 言葉かけを行い口腔ケアを行っている。現状はほとんどの入居者が一部介助で行えているが、今後も毎食後に確実にいけるように実践していく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) トイレでの排泄が行えるように支援している。オムツ使用者に対しても、日中は紙パンツ等を使用し排泄記録表や排泄徴候の観察から誘導を行いトイレでの排泄を支援している。</p> <p>(外部評価) 生活健康管理記録で排泄の時間や回数を把握し、利用者一人ひとりに合わせたトイレ誘導や声かけ、見守りを行なっている。失敗したときは、利用者に配慮し手早く静かに対応している。トイレで排泄できるよう、利用者に合わせた工夫をしながら取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 主治医から県下剤を処方されている場合もあるが、日常的に水分摂取量の確保とヨーグルト、バナナジュースなどの提供で排便を促している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 本人の入りたい時間に入浴ができるように工夫している。要望のない利用者に対しては、こちらから言葉かけを行い働きかけている。</p> <p>(外部評価) 利用者の生活習慣や希望に合わせた入浴ができるよう、工夫している。利用者が気持ちよく入浴できるよう、利用者毎にお湯の入換を行なっている。脱衣室、浴室とも広く、補助台や浴槽が可動式になっており、介助が必要になっても設備が十分整っている。隣接の施設の特浴の利用も可能である。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夜間眠れていない方へは、短時間の昼寝を促し身体や気分を休めるように配慮している。起床や入眠について本人の希望に合わせた対応を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の種類や副作用についての情報はファイルに綴り、職員がいつでも確認できるようにしている。また、処方薬が変更になった場合は必ず申し送り、状態の変化の有無を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 外出、食事の準備、散歩など日々の中でそれぞれできる事をしたい時に行ってもらえるように言葉かけを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に合わせた外出支援を心掛けているが、職員の勤務状況により出来ていない時もある。全体での外出行事は月に1度は取り入れているが、今後は個々の希望に対応できるように工夫していきたいと考えている。 (外部評価) 食材の買い物、病院受診、美容室、地域の行事への参加、保育園への訪問、毎月の外出行事や外食等、外出の機会を積極的に取り入れている。ベランダに布団を干したり、敷地内の庭に洗濯物を干したり、畑仕事をしたりと、日常生活のなかでできるだけ戸外に出れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人で所有している方もおられるが、ほとんどの方が所持していないためお金の心配をされる方が多い。職員は言葉かけをしながら少しでも安心できるように配慮しているが、今後、所持についての支援の工夫が必要と考えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話依頼のある方に対しその都度対応を行っている。利用者に応じて電話のとりつきや会話内容伝達支援等をさりげなく行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花や馴染みの祭りのポスターなどを飾り会話のキッカケ作りに使用している。記録物などの利用者の生活に関係ないものは、利用者の目の届かないところに保管し生活の場としての雰囲気を壊さないように配慮している。</p> <p>(外部評価) 設計の段階から管理者が関わり、居室やトイレの配置を利用者が混乱しないよう工夫したり、居間と食堂を別にして、生活にメリハリが持てるよう配慮されている。居室からベランダや戸外に自由に出来るようになっており、周りの景色を直に感じて一日を過ごすことができる。玄関や居間などには生活感や季節感を感じられる工夫もしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 事業所内の空間ごとに椅子を複数設置して一人ひとりが自由に過ごせるような環境づくりに配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に持参品の参考リストを渡し、使い慣れたものを持参するように依頼している。馴染みのタンスや布団、仏壇などを持ち込んでもらい、少しでも安心して安らぐことのできる空間づくりをこころがけている。</p> <p>(外部評価) 洗面台、ベッド、エアコン、カーテンは備え付けとなっている。寝具やタンス、椅子、思い出の品々が自由に持ち込まれ利用者の居心地のよさに配慮している。それぞれの居室の掃除等もできるだけ利用者が行い、自宅のような雰囲気でも過ごせるよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 「あぶないかもしれない」とどうしても職員側の視点で環境整備を行ってしまうおそれがあるが、生活の中にはリスクはつきものであると考え、しっかりしたアセスメントに基づき利用者の力を引き出して、安全な生活がおくれるように工夫していきたいと考える。</p>	